

特別支援教育だより

第4号

令和7年9月16日
長崎市立深堀小学校
特別支援教育部

2学期がスタートして、2週間ほどが経ちました。

2学期は、各学年においていろいろな行事があります。それぞれの行事に向けて、子どもたちは、事前の準備や練習、学習などにがんばろうと意欲を高めているところです。

これからも保護者の皆様の励ましの言葉や見守り等、ご協力をお願いします。

発達障害ってなに？

「注意欠陥多動性障害（ADHD）」「学習障害（LD）」「自閉スペクトラム症（ASD）」「軽度の精神発達遅滞」などという言葉を目にされたことはありますか。これらは、全て発達障害の種類です。「名前は聞いたことはあるけど、詳しくは知らない。」という方も多いのではないのでしょうか。

そこで、この「特別支援教育だより」で、これから、それぞれの特性やどんなことで子どもが困っているのか、支援の方法などについて紹介していきます。

～発達障害を知ること～

叱られることの多い子は…。

- 【例】
- ・友達とのトラブルが絶えない。家でも何度も叱っているのに…。
 - ・散らかしっぱなしで、いくら注意しても改善されない。
 - ・漢字を覚えられない。ちゃんと練習しているのに…。 など

もし、特性が根本にあるためにできないで困っているのなら、**ただ注意をしたり、努力させたりするだけでは、改善は難しい**ことが多いです。

しかし、保護者や周りの大人が「発達障害についての正しい知識」をもつことができれば、その子に合った適切な対応をすることができます。また、専門家に相談することで、よりよいアドバイスをすることもできます。

保護者の対応が変わると、
子どもが変わる。

好循環

ほめる機会が増える。

このように、好循環に切り替わっていき、叱ることも減り、子も保護者も笑顔が増え、より良い方向に体も心も成長していくことができます。

発達障害の特性と似た部分のある子はたくさんいます。「うちの子もこんな部分が似ているから、このように接してみよう。」などと、参考にいただければと思います。

次回は、「注意欠陥多動性障害（ADHD）」についてお知らせします。